

令和 7 年度 幼保連携型認定こども園 びえい青葉幼稚園 学校評価

当園は教職員の願いを形にしながら構成する豊かな園庭環境と園を取り巻く美瑛町の自然環境に恵まれた園です。園紹介の挨拶文には「乳幼児期は人間の一生のうちで最も成長し発達する時期です」と謳い、遊びの大切さ、そこで育まれる非認知能力の基本育ての大切さに触れています。

昨年来、文科省は教育要領等の改訂を踏まえて「遊びは学び、学びは遊び、やってみたいが学びの芽」というキャッチフレーズを発信し、架け橋期に向けて幼児教育施設に対して子ども達に「遊びを通して 10 の姿の育ちを引き出しながらさらに「やってみたい」を引き出す教育を」とメッセージを送っています。

しかし当園はずっと以前から、五感を通した自然体験においても、日常生活における伝統的な文化体験（けん玉やコマ回しやごっこ遊び等）においても、まさに個々の子どもからの「やりたい」を引き出し育て、発展させて小学校以降に伸びる力の基本を育てることを目指していると地域に発信し続けています。

そして、園目標は「人としてのねっこそだて」を踏まえて

- ① 自分で考え行動する子ども
- ② 共に育ち合う子ども
- ③ 夢中になって遊びこめる子ども の三つを挙げています。

今年度の学校評価について

開催された評価委員会では保護者への評価アンケートと教職員への評価アンケートの結果と分析について園長と保育部、教育部の教員より報告を受けました。

保育部においては 2 歳児の保護者から、本当に一部、教職員とのコミュニケーション不足の指摘がありましたがほぼ、高い評価と感謝のメッセージで溢れていました。

教育部で特筆できることは保護者アンケートの結果が総じて学年が上になるほど、教育成果において評価が高くなっており、この点、評価委員会としても高く評価する結果となりました。

また、保育部、教育部共、教職員の自己評価がやや厳しめで、委員からは「保護者からの高い評価に自信を持ってもらいたい」との指摘があったことを付記します。

なお、評価にあたっては保育部、教育部に対して項目を 3 点ずつに整理し、それぞれ以下に示します。

保育部学校評価

I 基本的生活習慣と楽しい生活（Q の 1 ～10/Q6 を除く）

身支度や楽しい食の時間を通して好ましい生活習慣が少しずつ育まれ、個々の興味や関

心から遊びの世界の広がりを教職員も保護者も喜びと共に共有していることが理解できます。また、保育室の雰囲気は温かく、子どもたちの表情も信頼と安心感に満ちています。

本項目の評価 A⁺

II 保護者とのコミュニケーション等 (Q6,Q11~13)

子どもの様子の伝え方、相談のしやすさについて、本当に一部の保護者から、また教職員の自己評価において「C」評価も見られましたが、評価委員全員の「A」評価を踏まえ評価します。

本項目の評価 A⁻

III 環境・安全対策等

園として年々改善が重ねられ、何より教職員の自己評価が高く、この上保護者への周知が徹底されれば問題はないと考えます。

本項目の評価 A

これら3項目の評価を踏まえて**保育部の総合評価を「A」**とします

教育部学校評価

I 環境を通した総合的教育活動(Q1~Q14, Q7を除く)

Q6,8,11,12 に対して、教職員の一部が自分に厳しく「C」評価をしていますが保護者からは総じて高い評価を得ています。子どもたちを取り巻く環境の身近なところにスマホやゲームがあり、社会が ICT 化し AI が蔓延^{はびこ}中、今だからこそ園児に「望ましい子どもの時代を」と願う「あおばの心」が日々実践されていることが保護者からも高い評価を受けています。先にも記したように学年が上になるほどに評価が高くなる傾向は大変に好ましく、在園児の親代表、卒園児の親代表の委員からも高い評価を得ており、委員会としても本項目は高く評価します。

本項目の評価 A⁺

II 保護者とのコミュニケーション等(Q7,Q15~17)

クラスだより等、多様な手法を以て園から保護者に発するメッセージは 100%の保護者から評価されており、相談しやすい環境についても同様に評価されている、にもかかわらず Q16 において本当に一部の保護者から示された「C」評価についてはこれを吟味し対応して欲しいです。委員全員から、この「C」評価を踏まえても高く評価するとの声があり本項目も高い評価となります。

本項目の評価 A

III 環境・安全対策等

本項目については Q18 において 3 歳児の保護者から一部「D」評価が見られた。しかし、4, 5 歳児においては保護者において評価は改善しておりまた、教職員による自己評価が「A」

「B」で 100%であることから、改めて保護者への周知を前提に以下、評価します。

本項目の評価 A-

これら 3 項目の評価を踏まえて**教育部の総合評価を「A」**とします

びえい青葉幼稚園保育部・教育部併せての総合評価について

それぞれの保育活動・教育活動の高い評価を重視して高い評価をします

今年度の総合評価「A+」

【おわりに】

各評価委員からのコメントの一部を箇条書きで示して評価をまとめます。

- 個々の子どもに対する写真を用いたポートフォリオの継続的取組みには頭がさがります。
- 園の特色でもある和太鼓への取組みは個々の集中力や協働性の育ちに留まらず共感体験、感動体験を通した豊かな育ちに結びつくものと推測できて評価します
- 1 歳から年長の我が子の育ちを振り返って、若い先生とベテランの先生の組み合わせにフレッシュさや安定感を感じ、園への信頼感や感謝に堪えません。
- 感染症対策等、このまま丁寧に。
- 長年、園の保育教育活動を目の当たりにし、先生方のたゆまぬ改善への努力に頭がさがっています。
- 在園年長児の親として、今は卒園することが寂しい。感謝しかありません。
- アンケート調査の結果と分析から、日々成長変化する子どもの姿から園に対する保護者の信頼。理解の深まりを感じる。
- 子どもたちの園での育ちが小学校生活に活かされていくのだろうか、と思えている。
- 本園が子どもの豊かな育ちと共に先生も保護者も共に育ち合っている園なのだ、と思えて、嬉しくありがたいです。
- 次年度に向けて、接続期への意識をさらに高め、教職員だけでなく保護者にも「卒園までに育てたい 10 の姿」を浸透する保育・教育活動に向き合っていただきたい。

評価委員長 平野良明

評価委員

令和 7 年度保護者代表	浦島舞子
保護者副代表	眞鍋仁美
令和 6 年度保護者代表	西森静香